

# SWG♡s宣言

— 人と社会と地球の調和による、持続可能なウェルビーイングの未来へ —

2025.10.06

私たちの掲げる「SWG♡s (Sustainable Well-being Goals)」とは、

“「人」「社会」「地球」が互いに尊重し合いながら調和し、豊かさと希望を次世代へとつないでいく”

そんな未来志向のグローバルアジェンダです。

私たちはこれまで、SDGs (持続可能な開発目標) という共通目標に向かって、負の遺産を次世代に残さないという志のもとで社会を前進させてきました。

しかし、2030年に向けたそのゴールが近づくなかで、次に私たちが目指すべきビジョンは、ただ負を減らすことにとどまらず、正の遺産を次世代に残していくことではないでしょうか。

## ■ 「和」をもって未来をつくる

日本には「和を以て貴しと為す」という理念が古くから根づいています。

それは、知ることによって相手を理解し、共に生きる未来を描く力とする考え方です。

SWG♡sはこの「和」の精神に基づき、個人と社会、そして自然が互いを尊重し、未来への正の遺産を共創していく構想です。

## ■ 「SWG♡s」による価値創出

人のウェルビーイング：現役世代だけではなく、将来世代もふくめて、主観的にも客観的にも充実した状態

社会のウェルビーイング：地域固有の文化や経済が尊重され、活力があり、平和な状態

地球のウェルビーイング：環境保全・再生と自然との共生を基軸にした持続可能な状態

## ■ 「流域」という人・社会・地球の調和をシンボリックに体感できる新視点

あたらしい取り組みには、多くの人が体感できるシンボリックな活動が必要です。

たとえばSDGsでは、「エコバッグ」や「マイボトル」などが、象徴的な活動になりました。では、人・社会・地球の調和を掲げるSWG♡sは、どのような活動がシンボルとなるのでしょうか。

ひとつの方向性が「流域」になると私たちは考えます。

いま、地球規模の環境課題が「生物多様性」・「ネイチャーポジティブ」にシフトしています。

この課題はCO<sub>2</sub>などと異なり、ひとつの地域のなかで解決していかなければいけません。IPBES（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム）なども地域における生物多様性に取り組む際に、「流域」を生命圏の基本単位として取り組むことの重要性を提唱しています。日本国内においても、豪雨等の水害が多発する昨今、行政区分を超えた「流域」での治水が求められています。あるいは都市と地方の関係性を考える際も、この「流域」という観点で地域を捉えていくことが求められます。

以上から、SWGsにおいては、人・社会・地球が調和して生きていくとはどういうことなのか、「流域」というローカルな単位において、負を減らすことにとどまらず、正の遺産を次世代に残すための具体的なアクションに取り組んでいきます。

### ■ 「GDW (Gross Domestic Well-being)」という新指標

GDWとはGross Domestic Well-beingの略称です。

日本語では「国内総充実」と訳され、その国におけるウェルビーイングを測る新たな指標として注目されはじめています。GDWは、SWGsの中核をなす重要な指標として、経済的な側面だけでなく、精神的・身体的健康、社会的つながり、教育、環境など幅広い要素を考慮し、持続可能な社会の発展や実感できる豊かさを目指していくために定期的に測定し、改善を促していきます。

### ■ 「FR (Future Generations Relations)」という新概念

社会をウェルビーイングにし、SWGsを達成するためには、未来を担う「将来世代」と向き合い、対話をする必要があります。

「FR」とは、株主や投資家との対話活動を示す「IR (Investor Relations)」にならい、「Future Generations Relations」を略した言葉です。

株主や投資家と対話をする「IR活動」と同じように、将来世代との対話も「FR活動」という形で、社会に根付いてほしいという想いを込め、本イニシアチブに参画する企業から立ち上がった新しい概念です。

私たちが今日からできること。SWGsを始めるために、特別な技術や制度は必要ありません。

まずは、「人」を知ること、「社会」を知ること、そして「地球」を知ること。

またそのつながりを「流域」という観点から体感すること。

それが、正の遺産を次世代に残す、新しい社会のはじまりです。

本イニシアチブは、宣言します。人と社会と地球の調和による持続可能なウェルビーイングである「SWGs」の実現に向けて、今ここから歩み始めることを。

# 2030年達成目標である SDGsの次なる 国際アジェンダを。

# SWGs

Sustainable Well-being Goals

# 宣言

**米女 太一**  
アサヒ飲料  
代表取締役 米女 太一

**永吉 正郎**  
EY Japan  
代表取締役 永吉 正郎

**高田 幸徳**  
住友生命保険  
代表取締役 高田 幸徳

**坂井 和則**  
TOPPANホールディングス  
代表取締役 坂井 和則

**後藤 和弘**  
日清食品ホールディングス  
代表取締役 後藤 和弘

**片山 紀生**  
PwCコンサルティング  
代表取締役 片山 紀生

**上野 理恵**  
江崎グリコ  
代表取締役 上野 理恵

**石井 力**  
NECソリューションイノベーション  
代表取締役 石井 力

**船越 真一郎**  
MS&ADインシュアランスグループホールディングス  
代表取締役 船越 真一郎

**渡邊 壽信**  
東京海上ほしフィナンシャルグループ  
代表取締役 渡邊 壽信

**宮崎 直樹**  
東京海上ほしフィナンシャルグループ  
代表取締役 宮崎 直樹

**和川 久人**  
日本たばこ産業  
代表取締役 和川 久人

**和田 孝雄**  
パーソンホールディングス  
代表取締役 和田 孝雄

**青井 浩**  
丸井グループ  
代表取締役 青井 浩

**高倉 透**  
三井住友トラストグループ  
代表取締役 高倉 透

**大貫 陽一**  
森永乳業  
代表取締役 大貫 陽一

また、3文字のアルファベットを使った略語が出てきた。そう思う方もいるかもしれません。けれどこのSWGs、これからの未来を考える上での重要なキーワード。「Sustainable Well-being Goals」の略になります。この世界から、分断・格差・環境破壊をなくしていくには、どうすればいいのか。行き過ぎた規模の拡大を抑えるには、どうすればいいのか。抜け落ちていたのは、Well-beingの視点。SWGsは、Well-beingの視点から持続可能な世界を目指す未来志向のゴールです。SDGsは、将来世代に負の遺産を残さないための、国連が掲げる2030年までの目標。SWGsが目指すのは、将来世代に正の遺産を残すための、2030年以降に掲げる国際アジェンダです。そのために、私たちWell-being Initiativeでは、5年の歳月をかけて、官民学一体で議論・推進してきました。たとえば、既存のGDP(国内総生産)では捉えきれない、一人ひとりのWell-beingを測定する指標として、GDW(Gross Domestic Well-being / 国内総充実)を開発。四半期調査を実施・発表してきた取り組みも、そのひとつです。そして本日、大阪・関西万博にて、企業の垣根を超えた18社が共同で、SWGs宣言を発信します。日本発の概念を、世界へ。日本が昔から大切にしてきた「和」の精神を、Well-beingな世界への架け橋にしていく。私たちはこのSWGs宣言が、未来を大きく変える確かな一歩になる、と信じています。

宣言の全文はこちら

## 人と社会と地球の調和による、持続可能なウェルビーイングの未来へ

\*Well-being Initiativeは、日本経済新聞社が有志の企業や有識者・団体等と連携し、2021年3月に立ち上げた企業コンソーシアムです。本イニシアチブでは、ウェルビーイング(実態としての豊かさ)を測定する経営指標開発やウェルビーイング経営の推進、政府・国際機関への提言、Well-beingをSDGsに続く世界的な政策目標に掲げることを目指しています。

## ■ 賛同者

Well-being Initiative 参画企業（本宣言時点）

- ・アサヒ飲料 米女 太一 代表取締役社長
- ・味の素 佐々木 達哉 取締役執行役専務（コーポレート本部長）
- ・EY Japan 永吉 正郎 チーフ・タレント・アンド・ウェルビーイング・オフィサー
- ・江崎グリコ 上野 理恵 執行役員 サステナビリティ戦略室室長
- ・NECソリューションイノベータ 石井 力 取締役 会長
- ・MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス 船曳 真一郎 取締役社長 グループCEO
- ・住友生命保険 高田 幸徳 取締役 代表執行役社長
- ・東京きらぼしフィナンシャルグループ 渡邊 壽信 代表取締役社長 グループCEO
- ・TOPPANホールディングス 坂井 和則 取締役副社長執行役員 CHRO
- ・豊田合成 宮崎 直樹 取締役会長
- ・日清食品ホールディングス 後野 和弘 執行役員 フューチャーフード担当 博士（工学）
- ・日本航空 斎藤 祐二 代表取締役副社長執行役員・グループCFO
- ・日本たばこ産業 妹川 久人 執行役員 Chief Sustainability Officer
- ・パーソルホールディングス 和田 孝雄 代表取締役社長 CEO
- ・PwCコンサルティング 片山 紀生 執行役常務 CHRO
- ・丸井グループ 青井 浩 代表取締役社長 CEO
- ・三井住友トラストグループ 高倉 透 取締役執行役社長
- ・森永乳業 大貫 陽一 代表取締役社長

## ■ Well-being Initiativeとは

Well-being Initiativeは、よりよい社会をデザインしていくために、Well-beingという概念と新指標を、これからの時代の社会アジェンダにしていく企業コンソーシアムです。

イニシアチブ参画企業がそれぞれ各産業・各業界のリーダーとして、経営を通じて、社員と社会をウェルビーイングにするアクションの実装を目指していきます。そして、その活動のKPIを非財務指標として公開し、評価される世の中をつくっていきます。

主宰 : 株式会社 日本経済新聞社・株式会社 電通

企画協力 : 公益財団法人Well-being for Planet Earth

参画企業 : アサヒ飲料、味の素、EY Japan、江崎グリコ、NECソリューションイノベータ、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、住友生命保険、東京きらぼしフィナンシャルグループ、TOPPANホールディングス、豊田合成、日清食品、日本航空、日本たばこ産業、パーソルホールディングス、PwCコンサルティング、丸井グループ、三井住友トラストグループ、森永乳業

宣言制作へのご協力 : Global Wellbeing Initiative  
 ウェルビーイング学会  
 鈴木 寛（東京大学公共政策大学院教授 兼 ウェルビーイング研究ユニット代表）  
 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 蟹江憲史研究会

## ※Well-beingの定義

Well-beingの定義 16世紀のイタリア語「benessere（ベネッセレ）」が始源であり、「よく在る」「よく居る」という意味をあらわす概念。とくに企業経営におけるWell-beingとは、経営に関わるすべてのステークホルダーにとって、多様な定義を持つウェルビーイングを調和させていくことを目指すものです。